

定額 一月五元 三月十元 半年二十元 一年四十元

郵税 一月一元 三月二元 半年四元 一年八元

廣告 一行一文字 一日一角 三日二角 五日三角 七日四角 十日五角 一月一元

印刷 印刷所 常盤毎日印刷所 電話六三〇番

本社 同番地 (電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷所

川崎文治

常盤新報

八月十日刊

議會協贊權の無視

安藤正純

濱口内閣は、實行豫算を作つて第五十六議會が協賛した昭和四年度から、九千百餘萬圓を削減し、得々として緊縮政策を押し賣りして居る、かゝる例は我國代議政治始まつて以來の暴舉で議會の協贊權を無視するものである、議會協贊權の無視は、即ち國民の意志を蔑如し專制政治の昔に後と戻りするものなることを國民が記憶せねばならぬ。従し解釋相違の口實の下に、法

原齒科醫院

平町土橋通り電話三一三番

酒井國三郎

平町南町

贈答御案内

体裁優美な

箱入タオル 卅六錢位ヨリ

箱入半布 七十錢位ヨリ

箱入靴下 一圓廿錢位ヨリ

ボイルシャツ 一圓五十錢

絹シャツ 二圓三十錢

特製赤箱石鹼 二十五錢

三ヶ入 五十錢

半打入 五十錢

其ノ他各種 御利用下さい

便利な商品券を

ツルヤ

四丁目 電話百四十番

三男藤夫の新盆に相當候へ共時節柄に鑑み提灯其の他の御供物御辭退申上度此段御諒解願上候

平町四丁目九番地

松本愛三

荆妻キノ儀新盆に相當仕候へ共時節柄提灯其他の供物一切固く御辭退申上候

平町白銀町

柏木勝利

つたや旅館

過般葬式の際は種々御世話様に相成候段深く御禮申上候、就而今度新盆に相當致し候得共時節柄提灯其他佛前供物等御遠慮申上候間此段御諒承成度候

一心堂菓子店 高橋清

鹿島屋魚店 佐藤長藏

石井健二 早川次郎

青木ヨシ 以上大工町

父乙三郎儀新盆に相當り候へ共時節柄提灯其他一切の供物御辭退仕度候條何卒不惡御諒承被成下度以紙上申上候也

平町搔槌小路

阿部政右衛門

平町田町

高野卯之吉

謹啓

永興院淨圓蝶華清大姉新盆に相當り候處時節柄提灯其他の供物一切御辭退仕度候間此段御諒承之程願上候

昭和四年八月九日

永山和平

長男正一の新盆に相當候へ共時節柄提灯其他供物の御惠與一切御辭退仕度此段貴意候也

平町鍛冶町十七番地

松本忠次郎

中元謝恩特別第二回興行

大河内傳次郎、復歸作品

來週 沓掛時次郎 全

上映 日活オールスターキヤスト

原作 中川藤吉、林長二郎主演

宿命 人形武士 全

武士道華かなりし時武士に生れ剣を廢し人形武上の灰色の宿命史ではある

日活作品 島耕二、瀧花久子主演

悲哀 私しと彼女 全

行進曲 無抵抗主義の彼弱い、センチメンタリズムの權化彼の性格が映ぐましい喜劇を生んで行くのです

ヱイクトルブルの時代映畫化

ゼミゼラブルの時代映畫化

第二篇 噫 無情 全

鳥羽陽之助、梅村蓉子、澤村春子、常盤操子

九日 普通席 金十錢 日活平 館電四 替り 松竹平 館電六

旱天續き…… 機關車も喉が乾く

常磐各驛供給水不足

常磐線各驛は機關車に供給する水が欠乏し河川の水をくみ機關車で運送して給水辛うじて運轉を續けて居るがこの旱天が今後十日も續けばどうして給水し列車の運轉を續けようかと鐵道當局は頭痛八巻の體である

近年になく

各濱大賑ひ

乗もの満員

濱通り地方では約一ヶ月にわたり殆ど降雨なく石城郡小名濱、玉川、泉、渡邊等の各町村における水稲百餘町歩は全く澁水の途なく殆ど枯死に瀕し農家では雨乞ひをなしてあるがこれに反し勿來、小濱、小名濱、四倉、久の濱等の各濱では連日海へ海へと押し出す浴客で何れも近年にない賑ひを呈し浴場ばかりは不景氣知らず四倉小名濱等の乗合自動車や軌道は鈴なりすし詰めの満員で喜んでゐる

水擴張斷行

廳舎改築を保留して迄

平町では役場廳舎の改築費財源にあてる町有地の賣却にあせつたが最近になつて急に落つき拂ひ買収に手をだしたのもあつたに取られて居るが町當局の意中は目下申請中の水道擴張に對

する國庫補助が萬一交付されない場合は廳舎の改築を一時保留し町有地を賣却するためである

入山の

プール開き

同時に水泳大會

石城郡湯本町入山プール開きは明十一日午後二時より行はれるが同時に濱三郡水泳大會も開催する筈

平商業學校で

平津桃品評會

宣傳の爲め即賣

石城郡平津村農會では明十一日平町元商業學校において品質改善のため桃の品評會を行ふ事となつたが當日は宣傳のため午後二時より即賣をなす筈

自動車を止め

踊れや踊れ

平町の舊盆會

舊宇蘭盆會も僅一週日の後に迫つて平町地方は盆氣分が漸く漂ひ始めた盆十三日の夜から平町の宵を彩る盆恒例の靈燈ひさき火は隨所に現出する猪狩平署は最近自動車事故の激増に鑑み人出の最も多い盆十五十六の兩日は午後六時から同町本町通り一帯の自動車通行を

禁止すべく自動車協會に通達し狂踏亂舞する踊子を見

ブウく品評會

豚公の勢揃へ

郡農會の努力で養豚業一新

石城郡の養豚業は従來甚だふるはないで殆ど顧みるものもなかつたので同郡農會は是が改良を志し本春豚の本場神奈川縣から種豚二十餘頭を

購入し 郡内の篤農

家に飼育せしめたが成績極めて良好で目下いづれも六頭から十三頭位までの仔豚を生み落したので郡農會では是に一々純ヨウクシヤの血統證を附し販賣に便して居るが頗る好評で早くも縣外からまで注文殺到の

状態で ある右豚は

純ヨウクシヤ種で生後十ヶ月で三十貫を普通とする多産系で手入宜しきを得れば七八十貫にも達する優良種である郡農會では本秋此のヨウクシヤだけで豚の品評會を開催すべく目下準備中だが豚の品評會などは本縣で もいまだそ



醤油の注意

そして樽や壺は出来るだけ空気の乾いた涼しい場所を置いて置き平素清潔な土に

家庭 庭 家 關

んとする數多の人達の不安を一掃することとなつた

の例を見ないものとて大いに一般から期待され此分ならば同郡養豚の改良は一兩年を出でずと見られてゐる

平第一の

臨海學校通信

（第三信）八月八日晴、疲れがたのでせう今朝はあまりよい成績とは言へませんが、五時半にはすつかり起床し終へました朝の散歩中陸上の陸上魚です

暑い、暑い朝のうちから非常に暑いこの分ではと思つてゐる内に暑さは刻々と増して來ました。家の人はどうしてゐるんだらう……此の暑さにと思ひ出されました

朝の自由時間に昨日の仁井田浦に於ける泳ぎの成績で、白、緑の鉢巻をもらひました。緑は九人だけ、午後は試験だとして緑から黒白から緑へと昇

明日の天気

晴天氣續
き處によ
り夕立

も清潔にしてジメ／＼する事のないやうに心掛ける事が必要で、例へば床下や戸棚等の中に入れぬ方がよい、又壺の口等は特に清潔にして置くべきものです、又醤油の小出は木製の器よりも瀬戸物が耐于製のものの方が良くなるべく蓋のあるものが適當です若し使用中

七夕祭りの話

支那の七夕祭りの話

七夕祭りは古来七月七日の節句の一つにして解釋されてある、然し七夕祭りとはいくつ別であつて何の關係もない唯同日に當ると云ふだけの事である

節句

もの、事に従つて此の句の字は供へと云ふ字を書くのがたゞしいのである、昔はこの日の食物として索餅といふものを作つたもので今のそう麩の事である、これは支那の俗語の説から出た

事で高辛といふもの悪童子が死んで

小鬼

なり世上の人に疫病をつける、即ちおこりの病氣をつける、處が彼は生前このんで索餅を食たといふので之をそなへて祭り且一般の人もこれをたれば彼のおこりを受けける事がないといふ説に始まつたものである。七夕祭といふのはそれとは別で牽牛織と女といふ二つの星をまつる事で、この二星の

神話

やはり支那傳説の說で、その織女を七夕姫、又タナバタ、手の機といふ意味にもなるそれか

雲錦

といふ五色の錦を織出す程になつた處が天帝は彼の女をいつ迄も獨身で置くことを憐み天の川の西方に住む牽牛星の許へお嫁にやられた、其後七夕姫はすつかり不勉強になつて一向錦を織出さないのて天帝は大いに怒り七夕姫をば

天の川

の東即ち天の住居に引戻し川を離れて牽牛星と別居させた唯一年に一度即ち七月七日の夜はその兩星が相會することを許されたのであるがこの二の星が相會するのが夜分であるためたの夜の事を星會とか星會の空といつて居る

亡母徳本院新盆の處時節柄提灯其他一切の供物御辭退申候間御諒承の程願上候

市原卯太郎